

クリエイティブが未来をつくる

CREATIVE



経済産業省が打ち出してきた「クールジャパン」「クリエイティブ産業」政策が、東京オリンピック開催を前に注目を集めています。クリエイティブ産業とは、1990年代後半に英国政府が新たな成長産業創出のために作った概念で、「個人の創造性を起源とし、知的財産の活用を通じて富や雇用を産み出す可能性のある産業」と定義されています。

一方、大分県でも『大分県版クリエイティブ産業 (CREATIVE PLATFORM OITA)』の取り組みを開始しました。本事業により、商業やサービス業だけでなく製造業にもクリエイティブな手法を取り入れることで、新たな産業創出を目指しています。

今回の特集テーマは「クリエイティブが未来をつくる」です。クリエイティブな発想を取り入れた同友会企業取材してきました。

COLUMN

経営にクリエイティブな発想が求められる時代

日本のクリエイティブ産業が世界から注目されるようになったキッカケといえば、「クールジャパン」の代名詞ともいわれるアニメ、漫画、ゲーム、J-POP、ファッションといったポップカルチャーを中心としたコンテンツです。

しかし、クリエイティブ産業の裾野は広く、工芸、建築、伝統文化にまで範囲が及びます。最近の世界的な和食ブームも、そのひとつと言えるでしょう。

もともと日本は自動車や家電など製造業の分野で絶大な信頼を得て、「モノづくり大国」としての地位を確立してきました。しかし、たとえ“よいモノ”を作っても、なかなか売れないのが現実です。今後は少子高齢化や人口減少で内需低迷が懸念されるので、海外からのグローバル需要を取り込むために、産業構造の転換が求められています。

そのカギを握っているのが、クリエイティブ

産業だと言われています。

クリエイティブ産業は、潜在的な需要を産み出します。わかりやすく例えれば、製造業で100個生産しても、それ以上の売上は見込めません。しかし、同じ製造品でも面白いアイデアや洒落たデザイン、つまりクリエイティブな要素を加味することで、新たな需要の掘り起こしに繋がるケースが往々にしてあります。さらには様々な波及効果も期待できるのです。

製造業に限らず、商業やサービス業でも同じことが言えます。実直な姿勢で事業に取り組むことは当たり前。そこに、ひと工夫を加えることで、いかにお客様とのコミュニケーションを深めていけるか、戦略的に組み立てられる思考が求められるでしょう。

こうやって考えていくと、「クリエイティブ」とは、単に「デザインをカッコよくする」といった浮ついたことではなく、もっと深い意味を持つ

ていることが、おわかりになると思います。

ここ数年、「ブランディング」という言葉が経営の現場でも語られはじめました。ここでは、自社の強み、他社との違いを明らかにしながら企業の存在価値を再確認し、顧客にとっての価値を高めていきます。

成熟社会となった現在は、顧客から規模や技術といった“スペック”で選別される時代から、いかにして嗜好や感性に共感できるか“価値観”で選別される時代になっています。ブランディングにおいても、クリエイティブな手法や考え方が機能することは、言うまでもありません。

もともと経営とは「クリエイティブ」な行為です。とりわけ創業時は、どんな会社にするか、未来の設計図を描いたことでしょう。

いま一度、経営の原点に立ちかえり、クリエイティブな考え方を取り入れながら、企業の未来戦略を考えてみませんか。

ものづくり × クリエイティブ

業種を越えたコラボレーションでクリエイティブ思考を増幅

有限会社文化プロセスは、県内でもいち早くスクリーン印刷に取り組んだ会社として知られています。スクリーン印刷とは、小さな孔のあいた網目の版(スクリーン)からインキを押し出すように通して印刷する手法で、屋外での耐久性に優れているため、ステッカーや看板、標識などに適しています。紙だけではなくビニール、金属、布への転写も可能であることから、文化プロセスでは工業製品への印刷にも力を入れており、ものづくり会社としての側面も持っています。

その一方で同社では、商業用途の提案にも力を入れており、クリエイティブな商品開発に余念がありません。

「スクリーン印刷の技術開発は順次進展しており、クリエイターの皆さんから特殊インキを使ったアイデアのご相談を受けることもあります。夜間でも視認できる蓄光インキ、匂いを発する香料インキ、ザラザラした手触りを楽しめる加工など、特殊印刷へのニーズは様々です」(尾形晴義取締役社長)

スクリーン印刷のノウハウを知り尽くした社内デザインチームも、尾形社長とともに企画力を磨きながら、新たな商品開発に積極的な姿勢で取り組んでいます。

有限会社 文化プロセス

(上人支部会員企業)

別府市古市町881-149

☎0977-66-5005

URL <http://www.coara.or.jp/~bunpro/>



表現力豊かなビニール提灯



取締役社長 尾形 晴義 氏

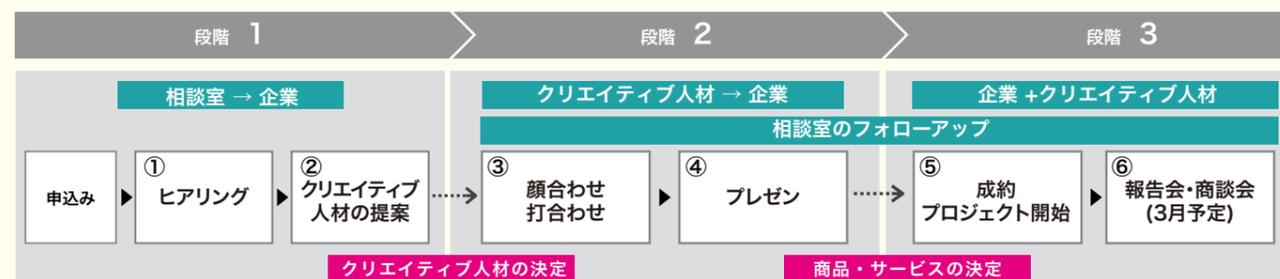
「他社とのコラボレーションにより刺激を受けることも多いです。宇佐ランタンさん(4頁でも紹介)とは長い取引があるのですが、最近屋外イベントに使用するビニール提灯に、多様なデザイン表現を織り込むようになってきました。スクリーン印刷といえば、あまり色数を使えないというイメージを抱く方も多かったのですが、オフセット印刷(紙媒体への印刷方式)と同様に自由度の高いデザイン表現も可能になってきており、広告媒体としての機能が強まっています」

スクリーン印刷のエキスパートとしての技術力を強みに、ものづくりにクリエイティブなエッセンスを注いできた同社が、次はどんな提案を発信してくるのか、非常に楽しみです。

「クリエイティブ相談室」を活用しよう

大分県が取り組む『CREATIVE PLATFORM OITA』では、クリエイティブを活用した新規事業の立ち上げに関する相談から、営業・マーケティング・広報に関する悩みまで、さまざまな経営課題をクリエイティブの力で解決する『クリエイティブ相談室』を、2018年3月末まで開設しています。対象企業は大分県内に本社を有し、大分県内で事業を行う中小企業等。相談料は無料ですので、経営にあらたな風を吹き込みたい企業は、問い合わせてみてはいかがでしょうか。

大分県 平成29年度クリエイティブ・プラットフォーム構築事業 クリエイティブ相談室の流れ



相談者(企業)の費用負担は発生しません

相談者(企業)の費用負担は発生しません (一部の場合を除く)

成約後、具体的な業務に必要な費用はすべて相談者(企業)の負担となります

- ①クリエイティブ相談室でヒアリング。その後、必要に応じて相談員が企業を訪問し、ヒアリングを重ねます。
- ②ヒアリングにより出てきた課題、ご要望、ご予算などをふまえて総合的に分析。実施するプロジェクトの方針とマッチングするクリエイティブ人材が提案されます。

- ③相談員同席のもと、企業とクリエイティブ人材の顔合わせ・打合せをおこないます。
- ④クリエイティブ人材より、商品・サービス等の企画やデザイン案等についてプレゼンします。

- ⑤企業とクリエイティブ人材が契約し、実際にプロジェクトが開始されます。
- ⑥全国のマスコミ・バイヤーを対象に「クリエイティブ相談室」の報告会・商談会をおこないます。何らかの成果物(試作品を含む)を展示予定です。

問い合わせ先: **クリエイティブ相談室**
(担当: 川野・横山/月~金 9:00-18:00)

mail: info@creativeoita.jp
tel: 0977-22-3560 fax: 0977-75-7012

<http://creativeoita.jp>

バッグ | Bag

長年培ってきた技術と
その背景のストーリーが商品力に

ネットを中心に全国的に人気を高める“メイドイン大分”商品が、有限会社佐藤防水店の帆布製トートバッグです。

同社はトラック用シートの専門店として、昭和26年に創業。その後、店舗や住宅向けのテント、イベント設営用のテントと事業領域を広げていき、4代目の佐藤晃央代表取締役社長が平成23年に始めたのが、バッグ製造です。

「アパレル会社へ勤務した後に家業を継いだのですが、業界の低迷に危機感を覚え、新規事業として取り組みました」

もともと大工用の道具袋を受注生産していた同社では、そのノウハウをベースに厚手の帆布生地を使い、丈夫でシンプルなデザインのオーダーメイド品として仕上げたもの。

「良いものを長く使ってもらいたいという思いが一番にあります。バッグそのものは世の中にたくさんありますが、テント・シート専門店として創業60年を越えて積み上げてきた当社独自のストーリーが、商品への信頼感を与えています」

佐藤防水店が綴る物語は、これからもページを重ねます。

有限会社 佐藤防水店
代表取締役社長 佐藤 晃央氏
(大分支部会員企業)
大分市西新地2-1-4 ☎097-579-6500
URL <https://sato-bosui.com>



長く愛される商品には、
納得できるだけの
ストーリーがあります。

代表取締役社長
佐藤 晃央氏

味付けをした

クリエイティブな

株式会社 宇佐ランタン
代表取締役社長 谷川 実氏
(宇佐中央支部会員企業)
宇佐市橋津29-4 ☎0978-37-1584
URL <http://www.3.coara.or.jp/~lantern/>



耐水性に優れた
新素材の紙製提灯で、
表現力も広がります。

代表取締役社長
谷川 実氏

提灯 | Lantern

特許取得の素材を使った
新しいプロダクトデザインを

ビニール提灯生産で日本一の株式会社宇佐ランタンは、「平成28年度新用途創出デザインイノベーション支援事業」(主催:大分県)に採択され、著名なプロダクトデザイナー・熊野亘氏とのコラボレーション作品を実現しました。

「風雨による耐久性が高いビニール提灯は屋外イベント等に適していますが、処分する際に発生する有害物質が地球環境に負荷を与えます。そこで当社では水に濡れても破れにくい耐水加工紙を開発し、特許も取得しました。この新しい素材を何か別のプロダクトに転用できないかという思いで本事業に応募したのです」(谷川実代表取締役社長)

地方の中小企業ではなかなか実現できない有名クリエイターとのコラボにより、既存の規格にはない、洒落たデザインの提灯型照明器具の試作品が出来上がりました。

「さらに改良を重ねて商品化へと持ち込みたい」

耐水加工紙を活用した“新たな灯”は、業界の可能性を広げてくれそうです。

つげ櫛 | Comb

伝統技を現代に伝える
ものづくり職人のしなやかさ

「つげは育ちあがるまで100年にかかるという希少な樹木。きめが細かく、硬くて強い。しなりと粘りがあって、使えば使うほど風合いが出てきます。汗や皮脂など椿油以外は吸収しないため髪結いに最適と、櫛の材料としてクレオパトラや紫式部の時代から使われてきたと伝えられています」

このように、“つげ”という素材の特徴を話す、有限会社別府つげ工芸4代目、安藤寿章氏。大正6年創業の同社は、2代目は飾り物、3代目の安藤康男代表取締役社長は細工物、そして寿章氏は櫛をそれぞれ得意とし、繊細な加工を施した彫刻と透かし彫りの職人技を継承しています。

「伝統技術とはいえ、時代の流れを察知する柔軟性も必要。現代人にあわせてブラシをつくりはじめましたが、使い勝手やデザインには職人のこだわりを反映させてます」

異業種の若手職人と運営する東京の共同店舗も、大きな人気を集めています。いつの時代も職人は、つげのようにしなやかな適応力で技術を磨いてきたのです。

有限会社 別府つげ工芸
代表取締役社長 安藤 寿章氏
(南支部会員企業)
別府市松原町10-2 ☎0977-23-3841
URL <http://www.tsuge-kushi.com>



伝統の技を支えるのは、
時代を読む力と、
柔軟な対応力です。

4代目つげ細工職人
安藤 寿章氏

アイテムたち

株式会社 太田旗店
代表取締役社長 太田 匡彦氏
(大分支部会員企業)
大分市内町1-2-33 ☎097-532-5511
URL <http://www.ootaflag.co.jp>



刺子という素材に対する
クリエイターの着眼点に
刺激を受けています。

企画制作部 企画課課長
湯田 紳哉氏

クッション | Cushion

“伝統”と先端”が織り成す
化学反応から生まれてくるもの

株式会社太田旗店も、上記の宇佐ランタンと同じ支援事業の採択企業です。慶応2年創業の同社は大漁旗などの染色製品と並び、軽くて丈夫な刺子生地で作った消防士が羽織る袴天の制作ノウハウを有しています。

「刺子のハギレを用いた小物雑貨をイベントで販売したところ好評だったので、バッグや生活雑貨など本格的な生産に踏み切りました」(湯田紳哉 企画制作部企画課課長)

職人がシルクスクリーンによる手捺染(ハンドプリント)で仕上げている同社の刺子柄は、黒糸をベースにした和の伝統柄がモダンに映え、独特な風合いを醸し出しています。

本事業では、プロダクトデザイナーの小宮山洋氏と湯たんぼカバー、女性デザインチーム『heso』とクッション、バッグを制作。熟練の職人技と伝統的テキスタイル(織物・布地)に先鋭的デザインを交えたオンリーワン商品の反響は大きく、既にクッションは商品化されています。社内デザイナーの刺激にもなり、同社は早くも次のステップに突入しています。